

太宰府市障がい者プラン策定に向けた 関係団体・事業所アンケート 結果報告書

令和8年3月

福岡県 太宰府市

I 調査の概要

(1) 調査の目的

障がいのある人の支援事業所や関係団体に対して、太宰府市の現状や課題、今後の意向を把握し、太宰府市の障がい福祉のニーズや課題を整理することを目的として実施しました。

(2) 調査方法及び回収結果

○事業所ヒアリング調査

調査対象者	市内の障がい福祉サービス事業所
調査方法	郵送・メールによる配布・回収、Web フォーム回答
調査期間	令和8年2月13日（金）～令和8年3月10日（火）
回収数/配布数（回収率）	19件/86件（22.1%）

○事業所ヒアリング調査

調査対象者	市内の障がい福祉に関わる団体
調査方法	郵送及びメール配布・回収、Web フォーム回答
調査期間	令和8年2月13日（金）～令和8年3月10日（火）
回収数/配布数（回収率）	8件/10件（80.0%）

Ⅱ 事業所ヒアリング調査結果

問１ 事業所の概要について教えてください。（あてはまるものすべてを選択）

組織形態	回答数	組織形態	回答数
社会福祉法人	4	株式会社	9
医療法人	1	有限会社	1
NPO法人	2	その他	2
現在実施しているサービス	回答数	現在実施しているサービス	回答数
居宅介護	1	計画相談支援	7
重度訪問介護	2	地域移行支援	1
同行援護	1	地域定着支援	1
生活介護	3	日中一時支援事業	1
短期入所（ショートステイ）	2	児童発達支援	5
就労継続支援（B型）	3	放課後等デイサービス	7
共同生活援助（グループホーム）	1	医療型児童発達支援	1
施設入所支援	2	障害児相談支援	4

問２ 令和９年度から令和１１年度までに、市内で既存のサービス事業の利用定員を増やす、または減らす予定がありますか。

回答のあった項目			回答数
１．ある			4
２．ない			15
定員を増やす、減らす予定のあるサービス事業と、増減の予定時期、現在の定員→増減後の人数を記入してください。			
定員を増やす、減らす予定のサービス	増減の予定時期	現在の定員	増減後の定員
放課後等デイサービス	令和１０年４月	10	20
就労継続支援B型	令和９年ごろ	20	40
施設入所支援	令和８年１０月	45	40
生活介護	令和８年１０月	45	40
計画相談支援・障害児相談支援	令和９年４月	340	170

回答された定員の増減理由について教えてください。
増やす理由
現時点で多数のお問合せを頂いておりますが、定員の関係で受け入れが難しい状態となっております。地域のニーズに応えることができるよう増員を検討しております。
利用者の増加に伴い
減らす理由
入所者の地域移行と職員の人材不足
事業縮小

問3 令和8年度から令和11年度までに、市内で新たに実施を予定しているサービス事業がありますか。

回答のあった項目		回答数
1. ある		5
2. ない		14
新たに実施を予定しているサービス事業と事業の開始予定時期、定員を記入してください。		
新たに実施を予定しているサービス事業	事業の開始予定時期	定員
就労継続支援（B型）	令和8年4月	20
児童発達支援	令和8年5月	10
短期入所（ショートステイ）・児童発達支援 放課後等デイサービス	令和9年1月	10
放課後等デイサービス	未定	10
就労継続支援（B型）	令和8年6月	20

問4 太宰府市における障がい福祉の取り組みに関する各項目について、直近5年間でよくなったと感じる点と、今後の課題を教えてください。

①障がいのある人に対する社会の理解や権利を守る取り組み

太宰府市における良い点・改善された点
様々な福祉サービス事業所も増え、利用者目線での支援の工夫等を学び合える環境ができてきていると感じます。
障がいに対する相談できる環境が増えたことで、地域ネットワークの強化が感じられる。
開設してまだ1年未満なのでわかりません。
市役所での手続き時に障がい者への配慮ができています。
自身の情報収集や勉強の不足もあり恐縮ですが、事業所開設からの3年間、現場の感覚として大きな変化を実感する機会はありませんでした。
障がいに対する理解や配慮の広がり
市の広報誌やウェブサイトにおいて、音声読み上げへの配慮や、分かりやすい言葉（やさしい日本語）の使用、手話通訳者の配置など、情報を得る権利を守る取り組みが着実に進んでいると感じる。
福祉ネットワーク等を通じてのフォーラムの実施など。
・ネットワーク会議が行われることにより、参加事業所が増えてきたり見学・紹介等で他事業所の情報を無理なく自然に知ったりすることができるようになった。 ・テーマを設けた講習会も回数が増えた。
太宰府市における今後の課題
・障がいのある人への理解や権利についての普及啓発活動（市民/事業者に対しての講演会や研修） ・事業者に対して、虐待や成年後見制度など検討必要事例を市も交えて話せる機会を定期的に設けてほしい。
各家庭の状況に合わせたサービス支給が配慮されれば良いと思います。家族同居でも協力しない家族、協力できない家族がいると思うので、その置かれた状況に寄り添う支援になればいいと思う。家族同居だからだめです、ではなく、日々の暮らしの困り感に添った聞き取りをして、対応して頂けると助かります。その人の持つ生活環境も生活のしにくさに繋がっています。
困難事例へ基幹相談支援の機能。
災害時の要配慮者への対応。
弊所の利用者様からのお声から、各小学校間での対応（支援体制や配慮など）に対応差があると感じます。市全体として、より均質な支援が受けられる体制づくりがなされることを期待します。
差別の解消や合理的配慮。
福祉課内でサービスが必要な方の情報が共有されていなくて、対応した人によって回答が違う。
具体的にスロープを設置する際の費用負担は中小零細企業が支払うのかなど、その部分も含めてわかりやすく広報してもらいたい。
一般の方へのアプローチ。
できれば、講習会のテーマに専門性のある講習が細かくあると学びが多くなると思う。

②暮らしの環境・情報・安全

太宰府市における良い点・改善された点
・ SNS による情報発信。
定期的なネットワーク会議の開催や公共施設の利用（借用できる道具等を含む）など手続き等もスムーズになっていると感じております。
当事業所にて毎年行っている、被災地（地震・大雨等）に対するバザーの開催に快く協力をいただいています。子どもたちの社会貢献活動学習に対して、大変ご理解をいただき感謝しております。
放課後等デイサービスや児童発達支援の増加と災害時に備えた避難支援の地域意識。
交通渋滞や学生の通学路等の道路の拡張、整備。
今回のアンケートをきっかけに、観光地としてのバリアフリー化や最新技術を用いた情報発信（Universal MaaS 等）などがあるのを知りました。市として先進的な取り組みを推進されている姿勢は心強く感じております。今後は、こうした恩恵が児童福祉の現場にも波及することを期待しております。
公共施設や交通機関・建物のバリアフリー。
福祉避難所の開設訓練を事業所と協働で行った。
太宰府市の主要施設において、多目的トイレの改修や点字ブロックの再整備が進み、また、観光エリアにおいてもスロープの設置や段差解消が進んで車椅子利用者や視覚障がい者が移動しやすい環境が整ってきている。
・ 防災訓練等が実施され、地域の方々も意識が高まっていること。
太宰府市における今後の課題
・ 障がい者における災害時の避難支援の数値化と見える化の公表。
・ 災害時の医療機関との連携方法。
公共施設を利用したい際に予約がいっぱいでなかなか利用できない現状もあります。
障がい者、障がい児が安全に利用できる地域環境。（雨除けや日よけ座席のあるバス停の不足・短期入所（障がい児）の不足。）
高齢者の送迎サービス。
市が推進するバリアフリーや災害時支援などの取り組みについて情報収集が不足しておりました。事業所の安全計画に反映できるように広く周知いただけますと幸いです。
災害時の避難支援。
・ 点字ブロックの補修
・ 災害時に福祉施設職員勤務時に家族（児童または高齢者）が安全に過ごせる施設との連携。
点としての施設（建物）はバリアフリーでも、そこに至るまでの道（歩道の幅員不足、傾斜、古い段差）が依然として残っています。都府楼～筑紫野市杉塚7丁目あたりでは太宰府市の中に筑紫野市が入り込んでおり、抜け道のため危険にもかかわらず幅員増大などの道の整備が全く進んでいない状況で果たして暮らしの環境や安全が語れるのか。市を跨いで議論し、市民の安全を確保してほしい。
大災害のシュミレーションなど、テーマを設けて実施いただくと心強い。 （例えば避難先でまず何をするのかや避難後の事業所の利用者の支援。滞在避難を行ったときの行政との連携方法等。）

③障がいのある人を支える体制

太宰府市における良い点・改善された点
様々な福祉サービス事業所が選べるようになって選択の幅が広がってきていると感じています。
なかなか参加できていないのが現状ですが、関係機関同士の連携ができる場所を提供してくださっています。
関係機関同士の連携や定期的な支援会議が行われる事で支援の充実と協力体制が構築されつつある。
市役所の福祉課とは相談しやすく、連携がとりやすい。
市役所が配布されている事業所一覧をきっかけにお問い合わせをいただく機会も多く、支援を必要とする方へ施設情報がわかりやすく提供されていると感じております。また、受給者証の手続き等で児童福祉課へ問い合わせた際も、常に迅速かつスムーズにご対応いただき大変助かっております。
福祉サービスの利用しやすさ。
十分に把握できておらず、申し訳ありません。
サービスの量（選択肢）は拡充しつつあると思います。
医療と福祉の連携は多くなってきていると感じている（地域連携医療が増えてきている）（正直に言うと）以前に比べ行政の方と連絡が取りやすくなったと思う。
太宰府市における今後の課題
・相談窓口の一元化と連携の強化。（公・民含め） ・連携イメージの明確化（必要とする支援が必要な先に繋がるイメージが沸くようなもの）、医療と福祉の連携モデルを共有。
仕組みはあっても分かっていなくて、一人で悩んでいる人は居ると思うので、総合窓口があれば良いと思います。また、本人課題が実は家族の対応など家族の課題の時もあるので、家族を含めた支援になるときは、基幹相談支援センターにも協力していただければと思います。
・行政機関と相談支援との連携の充実と家族。 ・保護者支援の充実。
福祉のネットワークのあり方。
基幹相談支援センター等の役割は理解しておりますが、具体的な連携プロセスや、どのような事例の際に有効な連携が可能なのか、実務レベルでのイメージが持てていない部分がございます。今後、現場の事業所が実践的に学べる事例共有や教示の機会をいただけますと幸いです。
医療と福祉の連携。
障がいを持っている方だけでなくその家族も含めた子育て支援、高齢者支援との連携が見えづらい。
話し合いを重ねながら制度の狭間に陥る方の対応の検討をしていくこと。
特にありませんが、私ども自身で情報をさらに収集していけるよう行動します。
増えた選択肢の質の向上。

④本人の成長に合わせた支援と社会参加

太宰府市における良い点・改善された点
市内で開催されるイベント等に多く参加させていただいております。どのイベントも楽しめる内容でかつ対応等も配慮頂いております。
現在2名育休中のスタッフがいますが、安心して子育てができる環境を提供してもらっています。
こどものことを相談できる窓口があり、そこから検査療育へつなぐことができているのは良いと考えます。
就労継続支援事業所の増加・障がい者団体による活動・社会参加の場の拡大。（スポーツ・交流活動など。）
よくわかりません。
太宰府天満宮や九州国立博物館といった質の高い文化施設、また豊かな自然に恵まれた公園や散策路が身近にあり、放課後等デイサービスの活動において大変貴重なリソースとなっています。子どもたちが感性を育み、のびのびと身体を動かせる環境が整っていることは、心身の発達を促す上で非常に大きな利点であると実感しております。
文化芸術・スポーツ活動。
市内の放課後等デイサービス事業所が増え、学習支援、運動支援、ソーシャルスキルトレーニングなど、子どもの特性に合わせた選択肢が広がった。
特別支援学校と就労事業所の連携。
太宰府市における今後の課題
・障がい福祉と子育て支援課の連携（家庭状況、就学などにおいてどちらにも相談でき共有できる仕組み作り）、インフォーマル資源の普及と活用事例の共有。
母親の育児負担軽減、障がい児の子育てへの不安など具体的な支援が必要な人への対応窓口が周知されると良いと思います。
地域福祉計画の推進（移動支援・日中一時支援・生活支援）の制度整備・人手不足 家族依存の支援体制。
地域の子どもたちに障がいのある方の生活や活動を知ってほしい。
事業所開設当初は、コロナの影響で観光客が減少している中、太宰府天満宮等の豊かな環境を積極的に活用させていただき、子どもたちの感性を育む貴重な場となっております。昨今はインバウンド需要の高まりにより観光産業が活気づいていることは大変喜ばしい一方で、観光客の急増による混雑から、以前のように気軽に利用することが難しくなっている側面もございます。
就労支援。
放課後等デイサービス事業所が増えたのはよいことだが、その実態の抜き打ちでの調査などをしていただきたい。放課後の限られた時間帯の中でどのような意味のあることを行っているのかが不透明すぎる。ホームページではいいことばかりをうたっているが、実際の評価を見たい。そうすることで、利用者やその保護者も安心に繋がり、市の放課後等デイサービス自体の質が大きく向上することと見込まれる。
太宰府だけではないと思うが、母親にも何らかのリスクがある場合の（障がい・貧困・不安定等）出産前から出産後数年にわたる見守り、相談、子の安全等に関する支援などが手厚いと、虐待や成長未発達等の回避、何かあったときの素早い対応ができ子ども親も大事な人生が守られると思う。そのようなことにとっても関心を持っている。

⑤その他太宰府市における障がい福祉の取り組みについて、良い点や気になる点があれば記入してください

回答
市によって必要書類や対応が異なる点（事業者も利用者も困惑する）、各自の情報収集は必要だが、周知徹底しておくべきこと、制度改革・要件など、市から情報の共有を積極的に行ってほしい。
西校区の6自治会は施設への理解があり、協力してくれます。
担当が変わったときに引き継ぎができていないと感じることが多い。

問5 障がいがあっても暮らしやすいまちに向けて、特に重要だと思う項目はどれですか。
（あてはまるものすべてを選択）

回答のあった項目（回答数が多い順）	回答数
8. 療育・教育の充実	12
4. 障がい等の理解促進	11
9. 雇用・就労の促進	10
1. 差別解消・権利擁護の推進・虐待の防止	7
2. バリアフリー環境の整備	7
5. 自立・相談の支援	7
3. 情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実	4
6. 保健・医療の推進	4
7. 安心・安全の実現	4
10. 文化芸術・スポーツの振興	3

問6 問5で選んだ取り組みを進めていくために、具体的なご意見やご提案があれば、記入してください。

問5回答	取り組みを進めていくために必要なこと
5. 自立・相談の支援	義務教育が終わった後、支援が必要な方への受け皿的な就労先を考えていただけるとご家族も安心されると思います。
10. 文化芸術・スポーツの振興	絵画やスポーツができる環境により余暇の充実を作る。
2. バリアフリー環境の整備	福祉施設前の道路の段差解消。
4. 障がい等の理解促進 8. 療育・教育の充実	義務教育での障がい施設との連携。
4. 障がい等の理解促進	見学をしてもらったりすることで、その施設ごとの課題を知ってもらいたい。
2. バリアフリー環境の整備	市内全域のバリアフリー化を進めるために古い町並み(景観)を守る部分とバリアフリーを進める部分のバランス調整。
8. 療育・教育の充実	支援の質のみでなく事業所職員の質を上げる。
9. 雇用・就労の促進	仕事をさせるのではなく、その方が何の仕事をどの様にできるかを見ていく。

問7 他の団体や関係する機関、福祉サービス事業所、一般企業、学校などと「情報共有・連携・協働」する機会がありますか。

回答のあった項目	回答数
1. ある	13
2. ない	5
「情報共有・連携・協働」を進める上で他の関係機関や団体などに聞きたいことがあれば記入してください。	
具体的な活動やどんな役割を担っているのか情報共有の場があればインフォーマルなサービスと繋ぐことができやすくなるのではと思います。	
相談支援事業所や利用者様の併用先の他事業所、所属する教育機関(園・学校)とは日頃より情報共有や連携を図っております。一方で、基幹相談支援センターや社会福祉協議会との実務的な連携については、未だ機会がなく具体的なプロセスを把握できていないのが現状です。 社会福祉協議会様には現在、レクリエーション器具や施設の借用等で大変お世話になっておりますが、より踏み込んだ支援連携を行うには、どのような事例の際に、どのようなフローで連携が可能となるのか、具体的な指針や好事例をご教示いただける機会があれば幸いです。	
相談支援専門員が事業所を選定するにあたって見るポイントは？	

問8 地域の住民と「交流・協働」する機会がありますか。また、「交流・協働」を進める上で課題に感じていることがあれば記入してください。

回答のあった項目	回答数
1. ある	10
2. ない	7
「交流・協働」における課題	
地域住民が交流や協働に対して、どう思っているのか、どうしたいのか事例を知りたい	
支援が長期化・複雑化するケースでは、多機関が関わる中で調整役となる計画相談支援の負担が大きくなりやすい状況があります。コーディネート機能の強化が求められます。	
公園や公共施設を利用する際、周囲の方々と自然に挨拶や触れ合いを交わしたり、図書館の読み聞かせイベントに参加したりといった、日常の延長線上での緩やかな交流はございます。しかし、そこから一歩進んだ「協働」や、継続的な交流機会を持つには至っておりません。児童福祉事業所として地域の行事や活動にどのように参画できるのか、具体的な事例を知れる機会があると幸いです。	
交流する場の不足	
自治体ごとに障害理解の推進が違う。非協力的な地域がある。	
地域のイベントに参加しています。	

問9 行政と関係機関、地域が連携・協働して障がい福祉を推進していくうえで、行政に期待したい役割があれば記入してください。

行政に期待したい役割
それぞれができることを基本に、できないときや難しいときには相談にのっていただける行政であってほしいと思っています。よろしくお願いいたします。
公民館活動、サロン活動など地域の人に分かって頂ける様な機会があれば良いと思います。（誰でも参加できるサロン）民生委員の人たちの具体的な日々の活動など知る機会があれば災害等も含めてより関係ができるようになるのではと思います。
現場のニーズを踏まえた社会資源の整備や、人材確保・育成への支援を通して、地域の支援体制の強化を期待します。
ネットワーク会議等では児と者の事業所を分けて会議するときもあった方がいい。
基幹相談支援センターや社会福祉協議会等との連携や、地域の住民との交流・協働の参画支援、一歩踏み込んだ『連携の促進』を期待します。
拠点コーディネーターなどを配置して相談支援の仕組みの充実を図って欲しい。
様々な事例に対する柔軟な対応。
よく分からないので何を期待してよいのか事例等聞きたいです。

Ⅲ 団体ヒアリング調査結果

問1 太宰府市における障がい福祉の取り組みに関する各項目について、直近5年間でよくなったと感じる点と、今後の課題を教えてください。

①障がいのある人に対する社会の理解や権利を守る取り組み

太宰府市における良い点・改善された点
・障がいネットワーク会議の運営。 ・中核機関の設置。
市役所の窓口の人が優しくなった。 市内の障がい者用トイレがどこも使いやすくなった。 本人へのアンケートの際にふり仮名がふってあり、知的障がい者当事者の意向が反映されやすい工夫があった。
選挙開票時、点字の投票用紙の読み取りを行っていますが、立会人の方に直接説明をするようになったことで、有効票であることがわかるようになり安心しました。
私たちの情報収集不足でわかりません。
障がい者が相談しやすい受け入れ体制が整ってきた。 太宰府市職員の理解が深まってきた。
良い点：市民祭りに手話通訳の配慮があったこと。
障がいのある人への合理的配慮の提供が事業者に義務化された事で、太宰府市から事業者に対して周知されたことにより事業者の方の気遣いが変化しているように感じる。 差別解消について当事者との直接の話し合いで解決されている。（点字ブロック設置、横断歩道の白線補修等。）
太宰府市における今後の課題
・情報発信が不十分（専門性が高いため、一般住民向けの難しさはあると思うが） ・高齢者分野でも言えることだが、太宰府市は市長申立のハードルが高いとの声がある。
知的、精神の難しさを抱える方は、その特性から情報にアクセスする機会が限られているので、その方々への周知を各事業所や機関を通じてお願いしたい。
今後も継続していただきたいです。
障がいのある人への理解をどのようにして広げるのか工夫や方法。支援する人の人材確保・育成。
①市民へ障がい者への理解を深めてもらうこと。 ②障がい者が外出しやすいように配慮すること。（交通手段の整備、道路の段差の解消。） ③障がい者が市へ相談に行った時 one stop で解決する体制づくり。
講座等に手話通訳や要約筆記がない場合もあり、情報保障の観点からいくと不足していると考えられる。人権まつりなどの呼びかけも限られた人に届くのではなく、多くの人々（特に児童生徒）に届くようお願いしたい。
成年後見制度についてだれがどのように利用すればよいのか分かりにくい。現在法改正されるとの話があるそうですが、改正されたときにはその内容を分かり易く発信していただきたい。

②暮らしの環境・情報・安全

太宰府市における良い点・改善された点
・避難訓練、ワークショップ等を通じて一般市民に向けた情報の発信がされている。 ・「のるーと太宰府」を有効活用している人(高雄在住の利用者)がいる。
歩道の黄色い誘導ブロックがきれいに整備された。歩道に上がる段差が一部なくなったが、整備が途中で止まった感じ。
ミライロ ID、ユニバーサル地図/ナビ、「のるーと太宰府」。
市庁舎内は目や耳の不自由な人向けの対処がされている。市内の各店舗などまだ意識が低く対策がとられた所は少ない。
太宰府市ユニバーサルツーリズムにおける市内観光地におけるバリアフリー環境整備調査によりユニバーサル地図ナビが作成され利用されている。
太宰府市における今後の課題
広報紙やホームページなどの文字が小さい。色の多用、写真のみなど文字情報が少ないなど、見づらく意味が伝わりにくいものが多い。(音訳も困難です)ユニバーサルデザインの視点で作成してほしい。
公共の生活に関する情報を視覚障害の方々にきちんと伝える工夫をしてほしい。個人の方からの依頼で、ゴミの出し方や防災に関する点訳を行いましたので、他の方々への配布も検討してほしい。押し付けになっては駄目なのでアンケートなども考えてほしい。
障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の中にある基本理念「障がいの種類・程度に応じた手段を選択できるようにする」。インターネットだけでなく、障がいのある人に情報を伝える人の育成。各自治会で災害時弱者の避難支援や見守りの実施。市役所や公共施設のバリアフリー推進。広く使いやすいトイレの設置。
市民への啓発が必要。
まほろば号の車内アナウンスや掲示について、表記の方法などわかりやすく改善をしていただけると様々な方々が利用しやすくなると思われる。
ユニバーサル地図ナビを充実し、観光客だけでなく障がい者、高齢者に対しての情報発信を進めてほしい。広報車、町内放送の音が聴きづらいので災害時に不安がある。まほろば号のダイヤ改正で出かけにくくなった。

②障がいのある人を支える体制

太宰府市における良い点・改善された点
・筑紫地区外の相談支援専門員からのサービス利用問い合わせが増えた。事業所の選択肢が増えたことや医療関係者を含め関係機関の連携が促進されたことが要因と思われる。 ・新設されたグループホームや作業所からの問い合わせが増えた。（社会資源が増えたと捉えれば、良い点と言える。）
施設通所でサービスを利用しているが、満足しています。
市ホームページのページ番号がずいぶん整備されて、知りたいことにたどり着きやすくなった。市ホームページに「声の広報」として我々の音声訳が掲載されるようになった。ありがとうございます。
選挙開票時、点字読み取りシートを作成して下さったことで作業がしやすくなりました。福祉課の方から点字ラベルの依頼がありました。
筑紫地区社会資源マップ。
ネットワーク会議の開催で他の事業所とのコミュニケーションが取れるようになった。
太宰府市における今後の課題
障がい者支援に携わっている方々との交流の場を広く設けられるといいと思う。（行政、社協、障がいのある当事者、福祉ボランティア団体などが交流する場。ふくしまつり以外で。）
ラベル等、届きやすくする対策は継続していただきたいです。選挙開票会場まで行く（夜9時半）のが大変です。
幅広い支援実現のための職員、人材をどうするのか。社会福祉協議会やボランティアセンター、活動団体との情報共有と連携。
受付窓口の一本化（one stop 体制）。支援を必要とする人から情報を取得するための SNS の構築。包括支援センターでの障がい者問題の受付（one stop 体制）。（高齢者だけでないのが法律の目指すところ。）
今後、行政サービスの向上を望む、天満宮観光など、手話の会として市に貢献している部分があるため、PR や観光案内にかかる経費補助なども検討してほしい。
事業所を探している障がい者に対して分かりやすく案内できる配慮がほしい。（事業所を特定はできないと思うが参考になるような話をしてはどうか。）

④本人の成長に合わせた支援と社会参加

太宰府市における良い点・改善された点
筑紫地区社会資源マップ
・手当等の連絡がしっかり頂けるので、煩雑な手続き管理の負担が減って助かっている。 ・就労の場も増えており、本人の選択肢の幅が広がっていると思う。
太宰府市における今後の課題
相談、支援できる人材の育成
・親子で発達課題を抱えている場合、子どもの発達支援をすんなり受けとめるのが難しい場合があるので、細やかな対応が求められると思う。その際の手紙等の難しさはハードルを上げるのではと懸念している。
子ども、若者の当事者はもちろん、家族（特にひとり親家庭など）を支える仕組みづくりを協議してほしい、子ども食堂の利用なども含めて官民協同で行えるように。

⑤その他太宰府市における障がい福祉の取り組みについて、良い点や気になる点があれば記入してください

回答
・高齢者と障がいの家族等、介入の難しい事例について、検討できる機会が充実するとよい。地域ケア個別会議においても、住民の見守りが支援となりうることもあるため。
「ふくしまつり」に職員の方々は来られているのでしょうか？
エ・コラボは市や市職員の方々と「障がいのある人の働くこと、就労・雇用勉強会」が協働で開催できたことが良かったです。限られた職員数で頑張ってくださっていると思います。
市内の商店など事業者へ障害者差別解消法の主旨を周知していただきたい。

問2 障がいがあっても暮らしやすいまちに向けて、特に重要だと思う項目はどれですか。
(あてはまるものすべてを選択)

回答のあった項目（回答数が多い順）	回答数
3. 情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実	6
2. バリアフリー環境の整備	5
5. 自立・相談の支援	4
1. 差別解消・権利擁護の推進・虐待の防止	3
4. 障がい等の理解促進	3
6. 保健・医療の推進	3
7. 安心・安全の実現	3
8. 療育・教育の充実	3
9. 雇用・就労の促進	3
10. 文化芸術・スポーツの振興	1

問3 問2で選んだ取り組みを進めていくために、具体的なご意見やご提案があれば、記入してください。

問2回答	取り組みを進めていくために必要なこと
5. 自立・相談の支援	地域共生の観点からも、就労やボランティア等の社会参加の機会を得られる相談体制が必要（社会資源の共有をするためのプラットフォームが必要とを感じる）
5. 自立・相談の支援	困りごとが放置されないよう、よろず相談のような窓口があればと思う。高い知識を持った相談員がいてくれればありがたい
2. バリアフリー環境の整備	ボタンの位置を知らせるタイプの音が出る押しボタン式信号機の設置
4. 障がい等の理解促進	義務学校教育の中で座学だけでなく、直接視覚障害の方や聴覚障害の方の話を聞いて、生活の不便さ、悩みを知ることが必要だと思う。
1. 差別解消・権利擁護の促進・虐待の防止	障がい者施設での事故のないよう啓発が必要
3. 情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実	災害時の生活の情報取得
8. 療育・教育の充実	支援学校、支援学級とともに保護者への理解促進
9. 雇用・就労の促進	就労のためには段階的に支援が必要 ①支援学校→②地域活動支援センター→③B型→④A型→⑤一般企業
3. 情報アクセシビリティの向上・意思疎通支援の充実	障がいがある方の情報保障と相互コミュニケーションの役割を担う手話通訳などに関して、人材養成などに係る官民一体の協議が必要
2. バリアフリー環境の整備	整備されていない所も多いので定期的に状況調査してはどうか。当協会においても気が付いたところは報告したい。
5. 自立・相談の支援	支援事業者と連携し、障がい者と積極的に関わりを持ち、自立に向けて進めてはどうか。

問4 他の団体や関係する機関、福祉サービス事業所、一般企業、学校などと「情報共有・連携・協働」する機会がありますか。

回答のあった項目	回答数
1. ある	6
2. ない	1
「情報共有・連携・協働」を進める上で他の関係機関や団体などに聞きたいことがあれば記入してください。	
就学、教育、福祉の枠を超えて、当事者の居場所をつくる為、ミスマッチングを防ぐために、最初の入り口として大きな紹介窓口があれば良いのと思う。	
小学校の総合学習で点字の仕組みや身の回りの点字表記について教えている。 以前よりも点字学習をとりあげる小学校が少なくなった。	
エ・コラボはNP0 法人 福岡福祉とびうめ会さんを支援（障がいのある人の働く場の機材購入支援）働いている方々の仕事の様子や賃金向上などの情報を共有しています。支援機関や事業所、学校では障がい児・者の様子や支援の取り組みなどを広く市民に知ってもらう機会はあるのでしょうか。	
災害時要配慮者対策	

問5 地域の住民と「交流・協働」する機会がありますか。また、「交流・協働」を進める上で課題に感じていることがあれば記入してください。

回答のあった項目	回答数
1. ある	4
2. ない	2
「交流・協働」における課題	
社協主催の「ふくしまつり」の来場者が少なくなった。以前はスタンプラリーへのお菓子の寄付等があったが、なくなったのも一因か？	
地域交流サロン「エ・コラボカフェ」開催 障がい者の保護者・市民の交流の場として開催していますが、新しい方の参加が難しい。	
自治会、民生委員協議会と協働する機会がない	

問6 行政と関係機関、地域が連携・協働して障がい福祉を推進していくうえで、行政に期待したい役割があれば記入してください。

行政に期待したい役割
行政と社協がもっと密に連携してもらいたい。社協主催の取組をもっと PR するとか、どんなボランティア団体がどんな活動をしていて、問題点は何かなど、もっと行政も知るべきと思う。社協ももっと市に要望してよいと思うし、行政もそれに応える姿勢を持ってほしいと思います。
「ふくしまつり」への行政の方の参加。近隣他市の現状との比較。
エ・コラボの活動では市のいろいろな部署の方々が協力してくださり実現できたことがあります。心より感謝しています。 期待している役割は、新しい法律や利用できる制度、有益な情報の取集や発信。社会福祉協議会・ボランティアセンター、活動団体、地域とのつなぎ役をすることで、問題を解決できる仕組み作り。障がいのある人の支援をできる、できないだけでなく、寄り添い、本人や家族、支援者と同じ方向を見てくれる行政であって欲しいと願います。
新しい法律、条例が出た時点で教えてほしい。
人材養成に係る費用負担、補助、広報活動などあらゆる面で各団体のニーズを聞きながら支援をお願いしたい。
障害者手帳を初めて受け渡す際に、障がい者相談事業、障がい者が受けられる助成等の冊子「ぬくもり」を手渡しているが、丁寧な説明が必要だと感じる。（これを読んでおいて下さい程度の説明になっていないか？）